

第1問**設問A**

- (1) X山地がなだらかなのに対して、Y山地は標高が高く起伏が激しい。内的営力による隆起と外的営力による侵食が大きいため。
- (2) 火山活動が活発な地域に位置する褶曲山脈であり、標高が高い。
- (3) 戦後の食糧不足の解消を目的に干拓を行い、水田を造成した。
- (4) 沖積平野が卓越し、水利の良いcでは稲作が行われるのに対し、洪積台地が卓越し火山灰質のdでは畑作や酪農が行われる。
- (5) 5×10^1

設問B

- (1) 両県とも山がちな地形で、総面積に対して森林や山地が多く平野が少ないため、可住地が沿岸部や川沿いに限られる。
- (2) 水。瀬戸内気候により、香川県側は降水量が少なく、年間を通じて高知県側は多い。そのため吉野川上流にダムを作り、高知県から農業用水が大量に必要な香川県に水を供給している。
- (3) 長野県は冷涼な高地にあるため、高く売れる夏に出荷し、茨城県は平野にあり大消費地への輸送コストが低く、春や秋に出荷する。

第2問

設問A

- (1) 過放牧による植生の破壊を引き起こし砂漠化の一因となる。
- (2) 元々経済的に発展し、かつ肉食中心の文化であることに加え、健康志向や環境意識の高まりによって、高カロリーの肉類中心から魚介類、野菜類を以前より多く消費する食生活になったため。
- (3) 環太平洋造山帯に位置し、山岳地帯が多く牧畜に不向きで、綿花栽培などの伝統的農業が中心である。また、民族構成は肉食中心の文化である白人の割合が比較的 low、米やジャガイモ中心の食文化を維持する先住民が多いため、動物性食品の需要が低いから。

設問B

- (1) Aーマレーシア Bーベトナム Cータイ Dーインドネシア
Eーフィリピン
- (2) 工業化重視の政策により、生産量が他国に比べ伸びず、人口増加により需要も増えているため輸入が増え、自給率が低下している。
- (3) 高収量品種の導入など緑の革命の成功により、増加する人口に対応できる生産量を達成し続けており、自給率は100%を維持している。

第3問

設問A

- (1) アー5 イー16 ウー6
- (2) 東西統一後、経済が停滞し人口が流出した旧東ドイツで減少し、経済水準が高く人口が流入した旧西ドイツで増加した。
- (3) 南部は自動車などの高度な加工組立機械工業が発達し、北部の重工業地域は新興国の台頭による国際競争力の低下で衰退したが、両地域ともサービス経済化を進めて産業構造が高度化したから。
- (4) 中東やアフリカなど、紛争地域の難民の受け入れが増加したため。

設問B

- (1) 高度経済成長期に、農業から工業への産業構造の高度化がいち早く進んだ、臨海部の三大都市圏には高賃金の職が多かったため。
- (2) 東京圏は国際化・情報化の中で首都としての優位性からバブル崩壊の時期を除いて転入超過が続くが、自動車産業が盛んな名古屋圏は均衡状態、工業が衰退する大阪圏は転出超過の状態にある。
- (3) 以前は転出超過であったが、バブル崩壊後の地価の下落や再開発により人口の都心回帰が起こり、特別区部への集中が進んでいる。